

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					R2年度		R1年度 決算額 (千円)	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標			予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由	
I-1-(1)-⑥ 地域など行政の連携・協働による子育て支援の推進	1	①	地域に役立つ公園づくり事業	みどり・公園整備課	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指す。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげる。計画策定後は、翌年から概ね2カ年で再整備を行う。	地域に役立つ公園づくり事業による整備公園数	—	目標 20 公園	16 公園	—	26,000	106,493	109,983	6,825	順調	ワークショップの開催及び計画に基づく公園整備とともに、概ね計画どおりに進んでいるため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 地域と行政が連携して魅力ある公園づくりを推進するため、整備の前にワークショップを行うなど、地域のニーズを反映させるための取組を推進している。概ね計画どおり実施できており「順調」と判断。 【課題】 地域と行政が連携した魅力ある公園づくりを更に推進する必要がある。	今後も継続して地域と行政が連携し、魅力ある公園づくりに取り組む。
I-3-(1)-② 教育関係施設の連携による人材育成	2	④	【施策評価のみ】 到津の森公園プログラム の提供	公園管理課	【施策の内容】 小学生を対象とした、動物や自然とのふれあいを通して命の大切さや自然環境の保護の必要性を学ぶプログラムの提供	【施策の指標】 「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態	—	目標 —	—	—	—	—	—	—	—	—	順調	【評価理由】 遠足等で到津の森公園を訪れる小学校に対し、学習プログラムの提供を継続している。環境保全意識向上の機会を提供できており「順調」と判断。	今後も継続して小学生への学習プログラムを提供する。

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題			
II-1- (4)-④ 総合的 な災害 対策の 推進	3	①	河川改修事業 の推進	水環 境課	近年、ゲリラ豪雨 や都市化の進展に起 因する浸水被害が増 加している。 浸水被害を抑制す るため、治水事業の 根幹となる河川改修 を推進する。	浸水被害の低減	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	単年度目標 設定なし	—	河川毎 に計画 している 降雨 (1時間 で50~ 70mm程 度)に対 応でき る状態 (R15年 度)	2,449,700	3,153,410	2,663,312	78,250	順調	治水対策の目標(河川整備率)に向け、河川の改修事業が予定どおり進んでいることから「順調」と判断。	順調		
	4	①	巨過地区まち づくりに伴う 河川整備事業	神嶽 川巨 過地 区整 備室	長年市民に親しま れている巨過市場の 魅力向上と、市場に 隣接する神嶽川の治 水安全度の向上のた め、河川事業と一体 となった巨過地区の 再整備を推進する。	神嶽川(巨過地 区)の治水安全 度向上	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	単年度目標 設定なし	—	巨過地 区にお いて概 ね50年 に一度 発生す る降雨 にも対 応でき る状態 (R13年 度)	285,000	300,800	100,000	117,800	順調	巨過地区土地区画整理事業については、地元関係者と協議を進めながら調査・検討を実施し、予定通り令和2年度内に事業認可の取得、及び事業計画の決定を行った。 また、河川整備の取り組みが着実に進んでいることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 頻発する局地的豪雨などによる浸水被害を抑制するため、計画的に河川の整備を推進している。 着実に事業を推進できており「順調」と判断。 【課題】 計画的に河川整備を進める必要がある。	今後も継続して治水事業の根幹となる河川整備を推進する。
	5	①	豪雨災害から 市民を守る緊 急対策事業	水環 境課	普通河川等の流下 能力向上のための改 修事業、護岸の長寿 命化を行い、市民が 安全・安心を感じる まちづくりを推進す る。	浸水被害の低減	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	単年度目標 設定なし	—	H30年豪 雨で被 災した 河川の 浸水対 策が完 了して いる状 態 (R5年 度)	770,000	435,029	325,476	21,300	順調	河川情報システムの強化対策については予定どおり完了するとともに、河川改修事業については、地元関係者との協議を進め、事業内容の見直しを図りながら着実に進んでいることから「順調」と判断。			
II-2- (3)-④ 個人の 健康づ くりを 支える 環境の 整備	6	⑥ ⑪	健康づくりを 支援する公園 等整備事業	緑政 課	公園に高齢者の健 康増進に配慮した健 康遊具を設置し、運 動教室を開催して、 利用者に使い方を説 明する。 継続的にこの健康 遊具を利用すること により、高齢者の体 力増進に繋げる。	高齢者に配慮し た健康遊具の設 置公園数	累計 24公園 (R1年 度)	目標 1 公園	実績 1 公園	1 公園	0 公園	累計 30公園 (R5年 度)	10,000	0	14,190	3,650	遅れ	公園の新規整備に併せて健康遊具の設置を予定していた。しかし、当該公園の整備内容の合意形成に不測の期間を要し、当事業を翌年度に繰り越すこととしたため、「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 健康遊具の設置は概ね計画通りに進んでおり順調だが、令和2年度は公園の新規整備に併せた設置が地域との合意形成に時間を要し、翌年度繰越となったため「遅れ」と判断。 【課題】 高齢者の健康づくりを促進するため、環境整備を今後も推進する必要がある。	今後も継続して高齢者の健康づくりに資する環境整備に取り組む。

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)		決算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価	
Ⅲ-1- (1)-③ まち美化活動 の拡充	7	①	ボランティア ネットワーク の推進 (道路 サポーター)	道路計 画課	市が維持及び管理 する道路において、 道路清掃・美化など のボランティア活動 を行う地域の団体を 対象に、清掃用具や 花苗の支給などによ り支援する。	道路サポーター 加入団体数	—	目標 230 団体	235 団体	250団体 (R5年 度)	17,071	14,603	14,825	9,400	順調	コロナ禍で活動自体が抑 制される中、加入団体数は 微減に留まっており「順 調」と判断。		
							実績 233 団体	226 団体										
								達成率 101.3 %	96.2 %									
	8	①	ボランティア ネットワーク の推進 (公園 愛護会)	公園管 理課	10名程度の地域住 民で組織されるボラ ンティア団体で、公 園の美化活動・公園 施設の点検や禁止行 為の連絡・公園利用 者のマナーづくり・ 市民花壇づくりなど を行い、活動面積に 応じて活動費を助成 している。	公園愛護会の結 成数	—	目標 1,160 団体	1,160 団体	1,160団 体 (毎年 度)	45,730	43,584	45,096	18,135	順調	コロナ禍における会員の 減少や高齢化により解散 する団体が増加したもの の、全体としては目標の 団体数を概ね達成して おり「順調」と判断。	【評価理由】 コロナ禍による会員の減 少や高齢化により解散 する団体が増加したもの の、団体数としては概ね 目標を達成できており 「順調」と判断。 【課題】 団体数の増加・維持に向 けた取組を推進する必要 がある。	今後も既存団体の支援や 団体数の増加・維持に取 り組む。
							実績 1,184 団体	1,155 団体										
							達成率 102.1 %	99.6 %										
	9	①	ボランティア ネットワーク の推進 (河川 愛護団体)	水環 境課	地域の住民で構成 する河川愛護団体に 清掃道具購入の費用 等となる補助金を交 付することにより、 美化活動を広げる。 また、美化活動に 参加することによ り、地域の河川を身 近に感じ、自分たち の川として愛着を持 つような啓発活動へ とつなげる。	河川愛護団体数	—	目標 73 団体	73 団体	73団体 (R3年 度)	2,400	2,155	2,400	440	順調	高齢化や後継者不足に よって廃止した団体がある ものの、目標に近い数の 団体が活動しており「順 調」と判断。		
							実績 69 団体	62 団体										
							達成率 94.5 %	84.9 %										

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善								
実施番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標		予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由
Ⅲ-1- (2)-① 魅力ある生活 空間づくり	10	①	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり	緑政課	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うえるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。	市民花壇活動団体数	570団体(H27年度)	目標 619 団体	628 団体	628団体(R3年度)	56,550	50,362	49,057	23,150	順調	市民花壇活動団体数は、目標の達成には至っていないものの約90%であるため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 魅力ある生活空間をつくるため、街かどの花壇整備や地域のニーズを反映した公園づくりを推進している。 市民花壇における市民ボランティア等との協働は着実に推進できている。 また、地域のニーズを反映した公園整備についても計画に沿って進捗しており「順調」と判断。 【課題】 高齢化が進む中で市民花壇活動団体数の増加・維持を図る必要がある。	今後も継続して、街かどの花壇整備や地域ニーズを反映した公園整備など、魅力ある生活空間づくりに取り組む。
	11	①	地域に役立つ公園づくり事業	みどり・公園整備課	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指す。 計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげる。計画策定後は、翌年から概ね2カ年で再整備を行う。	地域に役立つ公園づくり事業による整備公園数	—	目標 20 公園	16 公園	—	26,000	106,493	109,983	6,825	順調	ワークショップの開催及び計画に基づく公園整備とともに、概ね計画どおりに進んでいるため「順調」と判断。	順調	【課題】 高齢化が進む中で市民花壇活動団体数の増加・維持を図る必要がある。	
Ⅲ-1- (3)-② 安心して通行できる身近な道路の整備	12	①	バリアフリーのまちづくり	道路計画課	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるよう、バリアフリーのまちづくりを進める。具体的には、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの設置などのバリアフリー化を行う。	主要駅周辺地区の主要経路の整備率	—	目標 95 %	100 %	100%(R7年度)	609,000	804,769	885,304	26,150	順調	主要駅周辺のバリアフリー化については、街路事業等で事業中の路線など、用地買収を含むものが残っており、短期的な対策が困難となっているが、その他路線における歩道整備を積極的に実施した。目標は達成していないものの、実績は94%に達しており「順調」と判断。	順調	【評価理由】 関係団体と協議しながら、通学路の改善要望対応や、子どもから高齢者まで誰もが安心して通行できる環境整備を概ね計画通りに推進できており「順調」と判断。 【課題】 バリアフリー道路等のハード面の整備を推進するとともに、取り組みの周知等のソフト面の施策の充実も図る必要がある。	今後も誰もが安全で快適に通行できる環境の整備を推進する。
	13	①	通学路の安全対策	道路計画課	登下校中の児童が交通事故に巻き込まれず、安全に安心して通学できる環境を整えるため、教育委員会や学校関係者、警察と一体となって、さらなる通学路の安全対策を推進する。	通学路の危険箇所における対策完了箇所数	—	目標 —	—	—	935,100	978,847	1,122,978	26,150	順調	通学路交通安全プログラムに基づき、例年同様、改善希望箇所への対策を概ね行ったことから、「順調」と判断。	順調		

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題	
V-1- (2)-① 都心の にぎわ いづく り	14	①	小倉駅・黒崎 駅前の賑わい づくりの推進	道路計 画課	北九州市の玄関口 となる小倉都心部と 黒崎副都心部の駅前 において、魅力的な 都市環境の創造につ ながる道路環境整備 を行い、まちの賑わ いを推進する。	歩いてみたくな る歩行空間を創 出	—	目標	—	—	歩いて みたくな る歩行 空間の 創出	187,000	270,360	584,538	61,500	順調	小倉駅南北公共連絡通路 のリニューアルが、概ね計 画通り進捗しており「順 調」と判断。	順調	【評価理由】 都心のにぎわいづくりに 資する小倉駅南北公共連絡 通路の整備、及び旦過地区 のまちづくりに伴う河川整 備等を概ね計画通りに推 進できており「順調」と判 断。 【課題】 効率的・効果的な中心市 街地の面的整備に合わせた 都心へのアクセス環境向上 の取組を継続する必要がある。	今後とも計画的に事業を 進める。
	15	①	旦過地区まち づくりに伴う 河川整備事業	神嶽川 旦過地区 整備室	長年市民に親しま れている旦過市場の 魅力向上と、市場に 隣接する神嶽川の治 水安全度の向上のため、 河川事業と一体とな った旦過地区の再 整備を推進する。	神嶽川(旦過地 区)の治水安全 度向上	—	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	旦過地 区にお いて概 ね50年 に一度 発生す る降雨 にも対 応でき る状態 (R13年 度)	285,000	300,800	100,000	117,800	順調	旦過地区土地区画整理事 業については、地元関係者 と協議を進めながら調査・ 検討を実施し、予定通り令 和2年度内に事業認可の取 得、及び事業計画の決定を 行った。 また、河川整備の取り組 みにおいても着実に進んで いることから「順調」と判 断。			
	16	①	紫川の整備	水環 境課	紫川のマイタウ ン・マイリバー事業 区間において、河道 掘削等の治水機能強 化を図るとともに、 人工の滝改修や周辺 広場整備等を行い、 都心部の水辺のにぎ わいづくりを推進す る。	都心部の水辺空 間のにぎわい創 出	—	目標	—	—	都心部 の水辺 空間の にぎわ い創出	348,590	501,002	503,319	37,400	順調	水辺施設や遊歩道等の整 備など、にぎわいづくりの ための環境整備が概ね計画 通り進んでいるため「順 調」と判断。			
	17	①	都市再生整備 計画(道路改 築)	道路計 画課	道路拡幅工事を 行うことで、慢性的な 交通混雑の解消及び 歩行者の安全な通行 を確保し、都心への アクセス向上を図 る。	交通混雑の解消 及び歩行者通行 の安全確保	—	目標	—	—	交通混 雑の解 消及び 歩行者 通行の 安全確 保	15,000	17,343	4,758	15,375	順調	道路整備が、概ね計画通 りに進捗しており「順調」 と判断。			

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題	
V-2-(2)-① 広域物流ネットワークの強化	18	①	自動車専用道路ネットワークの整備	道路計画課	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進する。	朝ピーク時の響灘地区～東田地区間の所要時間	43分 (H21年度)	目標	—	—	13分 (R9年度)	2,988,333	5,481,524	2,689,620	69,000	順調	戸畑枝光線の橋梁工事等が概ね計画通りに進捗しており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 広域物流ネットワークの強化に向けた交通網の整備を実施している。 戸畑枝光線をはじめとした主要な道路の整備を概ね計画通りに推進出来ており「順調」と判断。	今後も計画的に道路整備を進める。
								実績	—	—										
								達成率	—	—										
	19	①	主要な道路の整備(恒見朽網線など)	道路計画課	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図る。	新門司地区～北九州空港間の所要時間	36分 (H21年度)	目標	—	—	28分 (R7年度)	6,278,167	11,366,654	8,254,026	217,250	順調	道路整備が、概ね計画通りに進捗しており「順調」と判断。	順調	【課題】 幹線道路の整備に合わせ、物流拠点間のアクセス強化や地域間連携・交流の促進を図る必要がある。	
								実績	—	—										
								達成率	—	—										
V-2-(2)-② 市民の交通利便性の向上と産業活動の支援	20	①	自動車専用道路ネットワークの整備	道路計画課	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進する。	朝ピーク時の響灘地区～東田地区間の所要時間	43分 (H21年度)	目標	—	—	13分 (R9年度)	2,988,333	5,481,524	2,689,620	69,000	順調	戸畑枝光線の橋梁工事等が概ね計画通りに進捗しており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 広域物流ネットワークの強化に向けた交通網の整備を実施している。 戸畑枝光線をはじめとした主要な道路の整備を概ね計画通りに推進できており「順調」と判断。	今後も計画的に道路整備を進める。
								実績	—	—										
								達成率	—	—										
	21	①	主要な道路の整備(恒見朽網線など)	道路計画課	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図る。	新門司地区～北九州空港間の所要時間	36分 (H21年度)	目標	—	—	28分 (R7年度)	6,278,167	11,366,655	8,254,026	217,250	順調	道路整備が、概ね計画通りに進捗しており「順調」と判断。	順調	【課題】 交通・物流ネットワークの整備に合わせ、予防保全型の維持管理へ転換することによりコストの縮減への取り組みを進め、アセットマネジメント導入による都市基盤の長寿命化に取り組む必要がある。	
								実績	—	—										
								達成率	—	—										

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
V-3- (1)-② 都市基盤・施設 の適正な維持管理	22	①	橋梁・トンネル・モノレール等の長寿命化への計画的な取り組み	道路維持課	市内には、約2,000の橋梁と39本のトンネル、総延長約9kmのモノレールがあり、高齢化・老朽化が進行していることから、予防保全の観点での長寿命化事業に取り組んでいる。 事業の実施にあたっては、施設毎に個別施設計画を策定し、5年に1回の定期点検に基づく計画的な維持管理を実施することで、市民の安全・安心を確保するとともに、トータルコストの縮減や予算の平準化を図る。 ・「北九州市橋梁長寿命化修繕計画」(H22.3策定、H29.3改定) ・「北九州市トンネル長寿命化修繕計画」(H25.2策定、H29.3改定) ・「北九州モノレール長寿命化計画」(H23.6策定)	主要橋梁及びトンネルの健全性向上による市民の安全・安心の確保	目標	—	—	全主要橋梁及びトンネルの健全性Ⅱ以上(R5年度)	2,824,600	4,421,382	2,800,572	157,525	順調	橋梁、トンネル及びモノレールの長寿命化に向けた取組は、概ね計画通りに進捗しており「順調」と判断。	順調	【評価理由】 橋梁、トンネル及びモノレールの都市基盤の長寿命化を概ね計画通りに推進できている。 また、若戸大橋と若戸トンネルの維持管理を適切に実施できていることから「順調」と判断。 【課題】 引き続き計画的に長寿命化を実施するとともに、安全な道路環境を確保する必要がある。	今後も引き続き計画に従って長寿命化を推進するとともに、安全な道路環境を確保する。
						実績	—	—											
						達成率	—	—											
	23	①	若戸大橋・若戸トンネル維持管理事業	道路維持課	若戸大橋と若戸トンネルは、若松区と戸畑区とを結ぶ本市の重要な路線である。 日常の道路巡回や、有事発生時の緊急対応など適切な維持管理を実施することで、市民が安心して通行できる環境を確保する。	若戸大橋と若戸トンネルの適切な維持管理による、市民の安全・安心の確保	目標	—	—	安全な道路環境の確保(毎年度)	100,000	100,000	100,000	22,000	順調	適切な維持管理を行い、市民が安心して通行できる環境を確保できたため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 橋梁、トンネル及びモノレールの都市基盤の長寿命化を概ね計画通りに推進できている。 また、若戸大橋と若戸トンネルの維持管理を適切に実施できていることから「順調」と判断。 【課題】 引き続き計画的に長寿命化を実施するとともに、安全な道路環境を確保する必要がある。	今後も引き続き計画に従って長寿命化を推進するとともに、安全な道路環境を確保する。
						実績	—	—											
						達成率	—	—											
24	①	若戸大橋・若戸トンネル長寿命化事業	道路維持課	若戸大橋は吊橋構造、若戸トンネルは沈埋トンネル構造といった複雑な構造を有している。 このような構造物に対し、予防保全型の維持管理を実施し、維持管理費のトータルコストの縮減と予算の平準化を図るため、長寿命化修繕計画を策定するとともに、長期的視点に立った事業を推進する。	維持管理費のトータルコストの縮減や予算の平準化および予防保全型の維持管理 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	目標	—	—	健全性Ⅱ以上(R5年度)	250,000	256,980	166,488	22,000	順調	定期的な点検及びその結果に基づく補修工事を行うなど、予防保全型の維持管理が実施できたため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 橋梁、トンネル及びモノレールの都市基盤の長寿命化を概ね計画通りに推進できている。 また、若戸大橋と若戸トンネルの維持管理を適切に実施できていることから「順調」と判断。 【課題】 引き続き計画的に長寿命化を実施するとともに、安全な道路環境を確保する必要がある。	今後も引き続き計画に従って長寿命化を推進するとともに、安全な道路環境を確保する。	
					実績	—	—												
					達成率	—	—												

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
VI-1-(2)-② あらゆる主体による環境政策への参加の推進	25	④	長野緑地を利用した農業体験教室	公園管理課	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。	農業体験教室への参加者数	目標	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	2,750	2,034	2,699	1,120	遅れ	教室の開催回数は、目標値の約90%と概ね達成したものの、新団体への移行により、契約が7月以降となったこと、新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言等によって、参加者数は目標に達しなかったことから「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 新団体への移行及びコロナ禍により、参加者数が目標に達しなかったため「遅れ」と判断。 【課題】 年間を通じた農業体験参加者を増やす必要がある。	市民参加の拡大を図りながら、年間を通じた農業体験参加者を増やす必要がある。
VI-2-(1)-③ 総合的な緑化・森林の実施	26	⑩	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり	緑政課	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うえるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。	市民花壇活動団体数	目標	619 団体	628 団体	628団体 (R3年度)	56,550	50,362	49,057	23,150	順調	市民花壇活動団体数は、目標の達成には至っていないものの約90%であるため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民花壇における市民ボランティア等との協働は着実に推進できているため「順調」と判断。 【課題】 高齢化が進む中で市民花壇活動団体数の増加・維持を図る必要がある。	今後も継続して、市民との協働による総合的な緑化を推進する。

令和2年度 行政評価の取組結果(建設局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標		予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	27	①	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり	緑政課	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うえるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。	市民花壇活動団体数	570団体 (H27年度)	目標 619 団体	628 団体	628団体 (R3年度)	56,550	50,362	49,057	23,150	順調	市民花壇活動団体数は、目標の達成には至っていないものの約90%であるため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 農業体験教室は、新団体への移行及びコロナ禍により、参加者数が目標に達しなかったものの、市民花壇における市民ボランティア等との協働は着実に推進できているため、「順調」と判断。 【課題】 高齢化が進む中で市民花壇活動団体数の増加・維持を図る必要がある。	今後も継続して、街かどの花壇整備や農業体験教室など、市民が自然に触れ合う場や機会の提供を推進する。
	28	④	長野緑地を利用した農業体験教室	公園管理課	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。	農業体験教室への参加者数	—	目標 2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	2,750	2,034	2,699	1,120	遅れ	教室の開催回数は、目標値の約90%と概ね達成したものの、新団体への移行により、契約が7月以降となったこと、新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言等によって、参加者数は目標に達しなかったことから「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 東九州自動車道沿線の自治体(福岡県・大分県・宮崎県・鹿児島県)と協力しながら、国に対して整備活動の要望を行っており「順調」と判断。	今後も沿線自治体と協力・連携して要望活動に取り組む。
VII-3-(2)-① 東九州地域との連携	29	①	【施策評価のみ】東九州自動車道建設促進協議会の要望活動	道路計画課	【施策の内容】東九州自動車道建設促進協議会の要望活動 【施策の指標】東九州自動車道の建設促進	—	—	目標 —	—	東九州自動車道の建設促進	—	—	—	—	—	—	順調	【評価理由】 東九州自動車道沿線の自治体(福岡県・大分県・宮崎県・鹿児島県)と協力しながら、国に対して整備活動の要望を行っており「順調」と判断。	今後も沿線自治体と協力・連携して要望活動に取り組む。